

731

授業科目名	人体の構造と機能 I				
担当教員	吉川貴仁				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	吉川貴仁（医師として総合病院、大学病院で勤務経験あり）				

### 授業概要

疾病の成り立ちを知る上での前提となる正常な人体の構造と機能について、基本的な理解を深めることを目的とする。様々な健康課題を持つ人への看護支援を展開するうえでの基盤となる細胞と組織、生体リズムと内部環境の恒常性や、神経系、運動器系、感覚器系、循環器系（心臓、血管系、リンパ系）の構造と機能について学修する。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

#### 具体的内容：

#### 目標：

1. DP1. 人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる
2. DP2. 人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる

人体を構成する細胞・組織・器官系の構造と機能について基礎的な理解をする。

人体の骨格、関節、骨格筋、神経、内臓器の各構造とはたらく仕組みを説明できる。

呼吸・循環・消化を担う人体の基本的構造と機能について臨床での活用可能な知識を理解する。

呼吸器系、循環器系、消化器系を担う、臨床で活用可能な知識として説明できる。

#### 汎用的な力

1. DP1. 人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる
2. DP2. 人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる

人体の骨格、関節、骨格筋、神経、内臓器の各構造とはたらく仕組みを説明できる。

呼吸器系、循環器系、消化器系を担う、臨床で活用可能な知識として説明できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

定期試験

： テキストと講義資料の範囲の理解について評価します。

90 %

課題学習の提出内容等による総合評価

： 授業後に課題を出したミニレポート等

10 %

## 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
坂井健雄ら	・系統看護学講座・専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能 [1]	・医学書院	・2022年

## 参考文献等

その他授業中に適宜紹介します。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

配布スライドおよびpdf資料を参考にしながら教科書を読んで理解を深めてください。履修後はノート等の整理をしましょう。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 授業前後の時間を利用してください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 解剖学・生理学とは、人体を構成する基本的諸要素  看護における解剖学・生理学の必要性を理解する。人体を構成する単位（器官、組織、細胞、分子）について理解する（教科書 8-30ページ）。	人体の概要、人体の構成単位（器官、組織、細胞、分子）の階層性についてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
第2回 細胞、組織のはたらき  エネルギー産生や代謝、細胞分裂などの細胞のはたらきを理解する。組織の種類とはたらきについて理解する（教科書 30-54ページ）。	細胞・組織のはたらきについてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
第3回 消化管の全体像（口腔・咽頭・食道・胃・小腸・大腸）  食物を摂取して、咀嚼や嚥下、消化、吸収、排泄を行う一連の消化管の構造を理解する。（教科書 56-84ページ）	消化器系：口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸についてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
第4回 栄養を消化・吸収するしくみ  食物中の糖、脂質、蛋白質などの各栄養成分が、消化管内で消化・吸収されるしくみを理解する（教科書 56-84ページ）。	糖、脂質、蛋白質などの各栄養成分別に、消化・吸収するしくみをノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
第5回 肝胆膵臓器の構造とはたらき  肝臓で行われる代謝、貯蔵、胆汁分泌などに必要な構造としくみを理解する。膵臓の構造と内分泌・外分泌のはたらきを理解する（教科書 84-93ページ）。	肝臓、胆管、膵臓の構造とはたらきについてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
第6回 呼吸と血液のはたらき（呼吸器の構造）  酸素を取り入れて二酸化炭素を排出する外呼吸のための構造（鼻、副鼻腔、咽頭、喉頭、気管と気管支、肺、縦隔と胸膜腔、呼吸筋）を理解する（教科書 96-107ページ）。	呼吸器系：鼻、副鼻腔、咽頭、喉頭、気管と気管支、肺、縦隔と胸膜腔、呼吸筋についてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
第7回 呼吸と血液のはたらき（呼吸器の機能）  呼吸運動や呼吸調節のしくみや、呼吸機能（肺気量、一秒量、ガス交換）を理解する（教科書 108-126ページ）。	呼吸運動や呼吸調節のしくみや、呼吸機能（肺気量、一秒量、ガス交換）についてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間

第 8 回	<p><b>呼吸と血液のはたらき（血液の組成や酸素・二酸化炭素運搬の方法、血液凝固）</b></p> <p>赤血球へヘモグロビンを介して、血液中の酸素や二酸化炭素を運搬するしくみを理解する。血小板や凝固因子の成分や血液凝固のしくみを理解する（教科書 126-148ページ）。</p>	<p>血液の組成、血液中の酸素や二酸化炭素を運搬するしくみと、血液凝固のしくみを整理し、理解しましょう。</p>	4 時間
第 9 回	<p><b>血液の循環とその調節（心臓の構造）</b></p> <p>全身循環系の構成、心臓の構造（心房、心室、房室弁、心筋、刺激伝導系、冠動脈）を理解する（教科書 150-157ページ）。</p>	<p>循環器系：心臓の構造についてノートを整理し、理解しましょう。</p>	4 時間
第 10 回	<p><b>血液の循環とその調節（心臓の拍出機能）</b></p> <p>心臓の刺激伝導のしくみ、心電図の成り立ち、心内圧、心周期（収縮期、拡張期）、前負荷と後負荷を理解する（教科書 157-175ページ）。</p>	<p>循環器系：心臓の刺激伝導、心内圧、心周期、前・後負荷についてノートを整理し、理解しましょう。</p>	4 時間
第 11 回	<p><b>血液の循環とその調節（末梢循環系・リンパ管の構造）</b></p> <p>末梢循環の構成（肺循環・体循環の動脈系と静脈系、リンパ系）を理解する。血管壁の構造、側副循環を理解する（教科書 175-187ページ）。</p>	<p>循環器系：動脈系、静脈系、リンパ系、血管壁の構造についてノートを整理し、理解しましょう。</p>	4 時間
第 12 回	<p><b>血液の循環とその調節（血液循環の調節）</b></p> <p>血圧（収縮期血圧、拡張期血圧）、抵抗血管と容量血管、骨格筋の役割、血流再配分、血圧の神経性・液性調節、微小循環を理解する（教科書 187-208ページ）。</p>	<p>血圧の種類、血液循環を調節する因子についてノートを整理し、理解しましょう。</p>	4 時間
第 13 回	<p><b>身体の支持と運動（骨、関節、筋の概要、体幹・上肢の骨と筋）</b></p> <p>体を支え、動かすための骨、関節、筋の概要を理解する（教科書 282-296ページ）。体幹と上肢の骨と筋の構成を理解する（教科書 296-320ページ）。</p>	<p>骨、関節、筋の基本構造とはたらき、体幹と上肢の骨と筋の名称とはたらきについてノートを整理し、理解しましょう。</p>	4 時間
第 14 回	<p><b>身体の支持と運動（下肢・頭頸部の骨と筋、筋の収縮のしくみ）</b></p> <p>下肢と頭頸部の骨と筋の構成を理解する（教科書 320-339ページ）。運動神経と筋が収縮するしくみを理解する（教科書 339-355ページ）。</p>	<p>下肢、頭頸部の骨、筋の名称とはたらき、筋が運動神経の刺激で収縮するしくみについてノートを整理し、理解しましょう。</p>	4 時間

731

授業科目名	人体の構造と機能Ⅱ				
担当教員	吉川貴仁				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	吉川貴仁（医師として総合病院、大学病院で勤務経験あり）				

### 授業概要

人体の各器官が正常に機能するために、血液（成分と機能）、体液の構成と調節、生体の防御機構を理解することを目的とする。様々な健康課題を持つ人への看護支援を展開するうえでの基盤となる呼吸器系、消化器系、代謝系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系などの構造と機能を理解し、各機関相互の連携と異常がもたらす病的状態について学修する。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP1. 人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる
- DP2. 人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる

#### 具体的内容：

人体を構成する各器官系の機能について理解を深める。

脳・自律神経系や内分泌系の働きを中心に、他の各器官相互の連携のもとに、人体の生理機能が維持・調節されていることに理解を深める。

#### 目標：

免疫系、泌尿器・生殖器系の構造と機能が説明できる。  
体液の調節、尿の生成と排泄が説明できる。

人体の生理機能の維持と調節を担う、脳・自律神経系や内分泌系の働きについて説明できる。

#### 汎用的な力

- DP1. 人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる
- DP2. 人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる

免疫系、泌尿器・生殖器系の構造と機能が説明できる。  
体液の調節、尿の生成と排泄が説明できる。

人体の生理機能の維持と調節を担う、脳・自律神経系や内分泌系の働きについて説明できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

定期試験 : テキストと講義資料の範囲の理解について評価します。

90 %

課題学習の提出内容等による総合評価 : 授業後に課題を出したミニレポート等

10 %

## 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
坂井健雄ら	・系統看護学講座・専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能 [1]	・医学書院	・2022年

## 参考文献等

その他授業中に適宜紹介します。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

配布スライドおよびpdf資料を参考にしながら教科書を読んで理解を深めてください。履修後はノート等の整理をしましょう。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 授業前後の時間を利用してください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 内臓機能の調節（自律神経による調節） 自律神経（交感神経、副交感神経）のはたらき、構造、伝達様式を理解する（教科書 240-249ページ）。	交感神経、副交感神経の違いについてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
第2回 内臓機能の調節（内分泌による調節）-1 内分泌の全体像（ホルモンの生理作用、化学構造）を理解する。内分泌臓器（下垂体、甲状腺、副甲状腺、膵臓）の構造とはたらきを理解する（教科書 249-265ページ）。	ホルモンの生理作用や化学構造、下垂体、甲状腺、副甲状腺、膵臓についてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
第3回 内臓機能の調節（内分泌による調節）-2 内分泌臓器（副腎皮質、副腎髄質、性腺）の構造とはたらきを理解する。ホルモン分泌の調節（正負のフィードバック）、ホルモンによる糖や骨の代謝の実際を理解する（教科書 265-280ページ）。	副腎皮質、副腎髄質、性腺のはたらき、ホルモン分泌の調節、ホルモンによる糖や骨の代謝の実際についてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
第4回 情報の受容と処理（神経系の基本構造） 神経細胞（ニューロン）と支持細胞の構造を理解する。ニューロン、シナプスの興奮伝達のしくみを理解する。中枢、末梢神経の構造の概観を理解する（教科書 358-371ページ）。	ニューロンと支持細胞の構造、中枢、末梢神経の概観についてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
第5回 情報の受容と処理（脳） 脊髄、脳（脳幹、小脳、間脳、大脳、白質と灰白質、脳脊髄液、脳室と髄膜）の構造とはたらきを理解する（教科書 371-383ページ）。	脊髄や脳の各部位の構造とはたらきについてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
第6回 情報の受容と処理（脊髄神経、脳神経、脳の高次機能） 脊髄神経、脳神経、神経叢の構造とはたらき、運動（下行伝導路）と感覚機能（上行伝導路）のしくみを理解する。脳の高次機能（睡眠、記憶）を理解する（教科書 383-391、420-432ページ）。	脊髄神経、脳神経、神経叢の構造とはたらき、上行・下行伝導路のしくみ、睡眠や記憶のしくみについてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
第7回 情報の受容と処理（眼、耳、舌、鼻、疼痛）	感覚器系：視覚器、平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器、皮膚についてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間

	外部から情報を取り入れる仕組み（視覚器、平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器、皮膚）を理解する（教科書 397-420ページ）。		
第 8 回	<b>身体機能の防御と適応（皮膚、免疫、体温）</b> 外部環境から生体を守る仕組み（白血球、皮膚）を理解する。体温調節の基礎、内因性に体温レベルを決定する因子、運動時の体温調節を理解する（教科書 434-457ページ）。	免疫、体温調節のしくみについてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
第 9 回	<b>体液の調節と尿の生成（腎・尿路系の構造、排尿のしくみ）</b> 尿を作り体外に排泄する泌尿器系の構造（腎臓、尿管、膀胱、尿道）を理解する。蓄尿・排尿のしくみを理解する（教科書 210-237ページ）。	泌尿器系の構造：腎臓、尿管、膀胱、尿道、および蓄尿・排尿のしくみについてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
第 10 回	<b>体液の調節と尿の生成（尿生成のしくみ）</b> 糸球体濾過量、尿細管再吸収を含む尿生成のしくみを理解する（教科書 210-237ページ）。	腎臓における尿生成のしくみについてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
第 11 回	<b>体液の調節と尿の生成（腎臓の役割）</b> 体液調節、血圧調節、赤血球産生促進、カルシウム代謝における腎臓の役割を理解する（教科書 210-237ページ）。	腎臓が、体液を調節するしくみや、腎臓のその他の役割についてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
第 12 回	<b>生殖・発生と老化のしくみ（男性器、女性器）</b> 子孫を残すための構造（男性生殖器、女性生殖器）を理解する（教科書 460-475ページ）。	生殖器系：男性生殖器、女性生殖器についてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
第 13 回	<b>生殖・発生と老化のしくみ（生殖、成長と老化）</b> 子孫を残すためののしくみ（妊娠：受精と着床、受精卵の活動、胚の分化、器官発生）、成長と老化の過程を理解する（教科書 475-499ページ）。	妊娠、器官発生、成長、老化についてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
第 14 回	<b>体表からみた人体の構造</b> 体表の観察から身体の状態を評価する際に知っておくべき人体の構造を理解する（教科書 502-510ページ）。	体の表面で触れて観察の目印となる骨格や動脈などをノートを整理し、理解しましょう。	4 時間

731

授業科目名	病理学				
担当教員	鰐淵英機				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

本科目は、看護支援を実践するための患者の病態を理解するための基盤となる疾病の原因と成り立ちについて、基本的な知識を学び理解を深めることを目的とする。具体的には、病理診断の実際や、細胞と組織の障害と修復および循環障害、炎症と免疫、感染症、代謝障害と老化、先天異常と腫瘍について学修する。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP2. 人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる

#### 具体的内容：

人々の多様な健康レベルや健康問題について、各疾病の成り立ちとその病態を理解し、知識を踏まえた看護実践に繋げる。

#### 目標：

人体の疾病の成り立ちおよび回復の促進において、看護に必要な基礎的知識を理解することができる。

#### 汎用的な力

1. DP1. 人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる

疾患を持つ人に寄り添えるよう、疾病の成り立ちや回復および促進がどのような過程を経るのかについて理解することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 成績評価の方法・評価の割合

授業態度

20 %

定期テスト

80 %

#### 評価の基準

： 課題への取り組みや授業への参加度を評価します

： 教科書の指定された範囲に対し、的確に理解しているかを評価します

### 使用教科書

指定する

#### 著者

大橋健一、他

#### タイトル

・「看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進① 『病理学』」

#### 出版社

・医学書院

#### 出版年

・2020年

### 参考文献等

田中悦郎 著 「看護学講座 専門基礎分 疾病の成り立ちと回復の促進② 『病態生理学』」 医学書院、2020年。  
他、授業の中で適宜紹介します

### 履修上の注意・備考・メッセージ

1年前期科目「人体の構造と機能Ⅰ」での学習内容を、復習しておいてください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 病理学で学ぶこと 病因論 看護と病理学 病気と原因 ほか	テキストの該当部分を読み復習して参加すること。	4 時間
第2回 先天異常と遺伝子異常(1) 遺伝の生物学 先天異常 おもな先天性心奇形 ほか	各組織・器官の名称とその働きについて復習し、本時の内容に該当するテキストの部分を読んでおく。	4 時間
第3回 先天異常と遺伝子異常(2) おもな染色体異常による疾患 おもな遺伝性疾患 先天異常・遺伝性疾患の診断と治療 ほか	前回の授業を復習する。本時の内容に該当するテキスト部分を読んでおく。	4 時間
第4回 代謝障害 脂質代謝障害 タンパク質代謝障害 糖質代謝障害 ほか	各組織・器官の名称とその働きについて復習し、本時の内容に該当するテキストの部分を読んでおく。	4 時間
第5回 循環障害(1) 虚血と梗塞 充血とうっ血、浮腫、出血 ほか	各組織・器官の名称とその働きについて復習し、本時の内容に該当するテキストの部分を読んでおく。	4 時間
第6回 循環障害(2) 血圧調整と末梢循環障害 動脈の障害、静脈の障害 チアノーゼ ほか	前回の授業を復習する。本時の内容に該当するテキスト部分を読んでおく。	4 時間
第7回 炎症と免疫、膠原病(1) 細胞・組織の損傷と適応 細胞・組織の損傷に対する反応としての炎症 炎症の分類と治療 ほか	各組織・器官の名称とその働きについて復習し、本時の内容に該当するテキストの部分を読んでおく。	4 時間
第8回 炎症と免疫、膠原病(2) 免疫と免疫不全 アレルギーと自己免疫疾患 移植と再生医療 ほか	前回の授業を復習する。本時の内容に該当するテキスト部分を読んでおく。	4 時間
第9回 感染症(1) 病原体と感染源 生体の感染防御機構 感染経路と病原体 ほか	各組織・器官の名称とその働きについて復習し、本時の内容に該当するテキストの部分を読んでおく。	4 時間
第10回 感染症(2) おもな感染症 感染症の治療と予防 ほか	前回の授業を復習する。本時の内容に該当するテキスト部分を読んでおく。	4 時間
第11回 腫瘍(1) 腫瘍の定義と分類 腫瘍の発生機序 腫瘍の増殖・浸潤・転移 がんの進行度 ほか	各組織・器官の名称とその働きについて復習し、本時の内容に該当するテキストの部分を読んでおく。	4 時間
第12回 腫瘍(2) 主な腫瘍の診断と治療 ほか	前回の授業を復習する。本時の内容に該当するテキスト部分を読んでおく。	4 時間
第13回 腫瘍(3) 腫瘍の発生因子 生活習慣と環境因子 ほか	前回の授業を復習する。本時の内容に該当するテキスト部分を読んでおく。	4 時間



## 第 14 回 老化と死／病理学まとめ

各組織・器官の名称とその働きについて復習し、本時の内容に該当するテキストの部分を読んでおく。

4 時間

老化のメカニズム  
加齢に伴う諸臓器の変化  
臨死期の徴候と死の判定 ほか

731

授業科目名	生化学				
担当教員	關野高泰				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

本科目は、看護支援を行う上で様々な健康課題を持つ人への看護ケアを展開するうえでの基盤となる必要な生命現象について理解を深めることを目的とし、物理化学的視点から解明することを目的とする。具体的には、生体分子とその代謝制御機構のしくみ、生体の恒常性の維持メカニズムとその破綻が招く疾病の発生の仕組みについて学修する。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP1. 人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる

#### 具体的内容：

有機化学の基礎を復習し、生体での化学物質の特徴や代謝について学ぶ。小テストなどを通して自ら考え、他の人との話し合いからも学ぶ。

#### 目標：

生化学の学習を通して様々な生命科学の基礎としての知識を確実なものとする。

#### 汎用的な力

1. DP1. 人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる

生化学の自然科学としての法則性を確実に身に付けて様々な状況で科学的な思考ができるようにする。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

グループディスカッション	授業態度	：	ディスカッションへの参加状況や授業への積極性を評価します。
	10 %		
提出レポート		：	提出するレポートを評価します。
	20 %		
定期試験		：	講義の内容を的確に理解しているかを評価します。

70 %

## 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
島山鎮次	・生化学	・医学書院	・2019年

## 参考文献等

医学書院 生物学  
医学書院 化学

## 履修上の注意・備考・メッセージ

生化学は生物学や化学とも関連が深く、今後の学習の基礎にもなります。しっかりとした知識を身に付けてください。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： オフィスアワーを活用してください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第 1 回 <b>オリエンテーション、有機化学の復習</b>  グループ学習の進め方、有機化合物とは？アルカン、アルケン、アルキンなど脂肪族炭化水素、ベンゼンなどの芳香族炭化水素について	化学の教科書第11章有機化学を参考にして有機化学の概要を理解する。小テストの復習	4 時間
第 2 回 <b>I 有機化合物 1 特徴</b>  官能基の種類と特徴、異性体とは何か？反応（付加、置換、縮合、エステル化、加水分解）	化学の教科書第11章を参考に官能基や異性体について予習しておく。小テストの復習	4 時間
第 3 回 <b>I 有機化合物 2 各種</b>  ハロゲン、アルコール、フェノール、エーテル、カルボニル、カルボン酸、芳香族カルボン酸、エステル	様々な有機化合物について授業の内容をまとめる。小テストの復習	4 時間
第 4 回 <b>I 有機化合物 3 高分子化合物・有機毒</b>  高分子化合物、繊維、POPs、毒性のある有機化合物	高分子化合物について予習しておく	4 時間
第 5 回 <b>I 有機化合物 4 生物毒</b>  毒のある生物、感染症について	生物にとっての毒物とは何か調べる	4 時間
第 6 回 <b>I 有機化合物 5 ズーノーシス</b>  ズーノーシスとは？	ペットや野生動物、外来種について何が問題なのか調べる	4 時間
第 7 回 <b>II 生体物質と代謝 1 糖質</b>  糖質の種類と特徴、構造、働きなど	糖質代謝について教科書の該当する場所を復習しておく	4 時間
第 8 回 <b>II 生体物質と代謝 1 糖質代謝</b>  糖質代謝について、解糖とクエン酸回路、糖の貯蔵、グルコース代謝、ペントースリン酸回路	糖質代謝について教科書の該当する場所を復習しておく	4 時間
第 9 回 <b>II 生体物質 2 脂質と脂質代謝</b>  脂質の構造や機能、脂質の種類、脂質代謝 エステル	脂質について教科書の該当する場所を予習しておく。小テストの復習	4 時間
第 10 回 <b>II 生体物質 3 タンパク質とタンパク質代謝</b>  アミノ酸、タンパク質の構造や種類、タンパク質代謝、ヒトの代謝異常	タンパク質について教科書の該当する場所を予習しておく。小テストの復習	4 時間
第 11 回 <b>II 生体物質 4 核酸</b>  DNA、RNAの構造、遺伝情報の発現、セントラルドグマ、タンパク質合成	生物学の教科書や生化学の教科書を使って核酸について該当する場所を予習しておく	4 時間
第 12 回 <b>II 生体物質 5 ホルモン</b>	ホルモンについて教科書の該当する場所を予習しておく	4 時間

	ホルモンの種類と働き、ドーピング、エンハンスメント		
第 13 回	Ⅱ生物物質 6 ビタミン ビタミンの種類と働き、欠乏症、鵝外とビタミン	ビタミンについて教科書の該当する場所を予習しておく	4 時間
第 14 回	Ⅲ生態系と有機化合物 植物の代謝と環境問題 生態系、生物濃縮、光合成、化学合成、窒素同化、植物ホルモン	生態系における様々な化学変化について予習する（教科書生物学）。	4 時間

731

授業科目名	薬理学				
担当教員	矢部千尋・植田弘師・中田徹男				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

(概要)

薬理学では、総論において薬理学の概念、薬物の生体内動態、薬物の作用点・作用機序・相互作用などについて学ぶことを目的とする。また、各論では各病態に対する薬物（抗感染症薬、抗がん薬、末梢神経作用薬、循環器作用薬、中枢神経作用薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬、呼吸器作用薬、消化器作用薬等）の作用機序・副作用などについて学修する。  
(オムニバス方式/全14回)

(矢部 千尋/5回)

総論、抗感染症薬、末梢神経作用薬など

(植田 弘師/4回)

中枢神経作用薬、抗炎症薬・抗アレルギー薬など

(中田 徹男/5回)

循環器作用薬、呼吸器作用薬など

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP1. 人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる
2. DP2. 人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる

#### 具体的内容：

薬理学の概念、薬物の生体内動態、薬物の作用点・作用機序・相互作用と各病態に対する主要な薬物の作用機序・副作用などについて学ぶ  
人と薬の関係および医療現場での薬物療法をめぐる問題点を理解する

#### 目標：

薬の使い方を理解し、薬物療法の利点と欠点を考えることができる  
医療における薬の重要性と有害作用についての問題を考える姿勢を身につける

#### 汎用的な力

1. DP3. 地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる
2. DP3. 地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる

地域の様々な世代の人々の健康課題と薬について薬剤師を含む専門職と共に考え、支援することができる

地域で生活する人々の薬に関する知識や使用法について医療スタッフと連携して支援することができる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

## 成績評価の方法・評価の割合

定期試験	90 %
授業への参加状況	10 %

## 評価の基準

：	テキストと講義資料の範囲の理解度を評価
：	質疑応答、課題学習への取組みを評価

## 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
植松俊彦・滝口祥令・丹波雅之	・疾病の成り立ちと回復の促進③「薬理学」第2版	・メジカルフレンド社	・2022年

## 参考文献等

赤瀬智子、柳田俊彦編 ナーシング・グラフィカ「臨床薬理学」 MCメディカ出版 2023年

## 履修上の注意・備考・メッセージ

授業中に疑問点があれば積極的に質問し、その場で理解を深めるように心がけてください

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： メールを活用してください

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第 1 回 総論 1 / 矢部 薬理学の概念と履修目的を理解し、基本的な薬理学用語について学ぶ	シラバスに目を通し、授業全体の概略をつかむ	4 時間
第 2 回 総論 2 / 矢部 年代や性別、全身状態による薬の効果の違い、医薬品の取り扱い方、薬物療法を取り巻く問題について学ぶ	教科書の該当項目を精読する	4 時間
第 3 回 抗感染薬 / 矢部 感染症の成り立ちを理解し、抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬の種類と作用を学ぶ	教科書の該当項目を精読する	4 時間
第 4 回 抗がん薬 / 矢部 がんの成り立ちを理解し、抗がん薬の種類と作用の特徴を学ぶ	教科書の該当項目を精読する	4 時間
第 5 回 中枢神経作用薬 1 / 植田 中枢神経系の構造と機能を理解し、異なる作用部位に働く薬の作用機序を学ぶ	教科書の該当項目を精読する	4 時間
第 6 回 中枢神経作用薬 2 / 植田 中枢神経系疾患に用いられる代表的な薬物とそれぞれの作用の特徴を学ぶ	教科書の該当項目を精読する	4 時間
第 7 回 抗炎症薬・抗アレルギー薬 1 / 植田 炎症のしくみを理解し、抗炎症薬の種類と作用の特徴を学ぶ	教科書の該当項目を精読する	4 時間
第 8 回 抗炎症薬・抗アレルギー薬 2 / 植田 免疫系のしくみと異常を理解し、抗アレルギー薬や免疫抑制薬の種類と作用の特徴を学ぶ	教科書の該当項目を精読する	4 時間
第 9 回 循環器作用薬 1 / 中田 心臓と血管の構造と機能を理解し、高血圧症や心疾患治療薬の種類と作用の特徴を学ぶ	教科書の該当項目を精読する	4 時間
第 10 回 循環器作用薬 2 / 中田 造血器系の機能や血液凝固の機序を理解し、諸種の血液系疾患に用いられる薬物と作用の特徴を学ぶ	教科書の該当項目を精読する	4 時間
第 11 回 代謝系疾患治療薬 / 中田 生活習慣病として知られる主な代謝系疾患について理解し、治療薬の種類と作用の特徴を学ぶ	教科書の該当項目を精読する	4 時間

第 12 回	<b>消化器作用薬／中田</b> 代表的な消化器系疾患の成り立ちを理解し、治療薬の種類と作用の特徴を学ぶ	教科書の該当項目を精読する	4 時間
第 13 回	<b>呼吸器作用薬／中田</b> 呼吸器系のしくみを理解し、治療薬の種類と作用の特徴を学ぶ	教科書の該当項目を精読する	4 時間
第 14 回	<b>末梢神経作用薬／矢部</b> 末梢神経系に作用する代表的な薬物と臨床応用、効果の違いを学ぶ	教科書の該当項目を精読する	4 時間

731

授業科目名	病原微生物と感染				
担当教員	吉川貴仁				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	吉川貴仁（医師として総合病院、大学病院で勤務経験あり）				

### 授業概要

抗生物質開発以前は主要死因の1つであった感染症、インフルエンザウイルス感染や最近では新型コロナウイルス感染症のパンデミックがある。病原微生物と感染では、その感染症の原因となる微生物に対する防御機構である免疫、特に臨床看護で遭遇する自己免疫疾患、膠原病などについて基礎的な知識を理解し学修することを目的とする。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP1. 人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる
- DP2. 人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる

#### 具体的内容：

- 主たる病原微生物の概念、性質及び特徴をふまえ、感染・発症、生体と病原微生物の相互関係を理解する。
- 新興感染症や再興感染症、院内感染や日和見感染等の概念を理解し、感染に対する医療職の役割および予防対策の理論と実際について理解する。

#### 目標：

- 主たる病原微生物の概念、感染・発症、生体と病原微生物の相互関係を説明できる。
- 新興感染症や再興感染症、院内感染や日和見感染等の概念を理解し、感染に対する医療職の役割および予防対策について説明できる。

#### 汎用的な力

- DP3. 地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる

将来医療職として感染症患者や生体湿性物質に含まれる種々の病原微生物に接触することを考慮し、必要な病原微生物に対する知識を体得し、適切な感染予防を説明できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

定期試験	：	テキストと講義資料の範囲の理解について評価します。
	90 %	
課題学習の提出内容等による総合評価	：	授業後に課題を出したミニレポート等
	10 %	

### 使用教科書

指定する

著者

タイトル

出版社

出版年



## 参考文献等

その他授業中に適宜紹介します。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

配布スライドおよびpdf資料を参考にしながら教科書を読んで理解を深めてください。履修後はノート等の整理をしましょう。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 授業前後の時間を利用してください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 微生物・医動物とは  臨床微生物・医動物の種類（寄生虫、細菌、真菌、ウイルス、プリオンなど）と各々の特徴、また、身の回りの微生物（常在微生物、プロバイオティクス）を理解する（教科書28-37ページ）。	・臨床微生物・医動物の種類と各々の特徴についてノートを整りし、理解しましょう。	4 時間
第2回 呼吸器感染症  呼吸器感染症を起こす微生物（インフルエンザウイルス、肺炎球菌、結核菌、コロナウイルスなど）の特徴、症状、診断、治療、予防を理解する（教科書38-55ページ）。	・呼吸器感染症についてノートを整りし、理解しましょう。 ・結核感染に関する検査、治療や予防内服について、ノートを整りし、理解しましょう。	4 時間
第3回 消化器感染症  消化器感染症、食中毒、肝炎を起こす微生物（腸管出血性大腸菌、コレラ菌、赤痢菌、チフス菌、ヘリコバクターピロリ菌、A型、B型、C型肝炎ウイルス）の特徴、症状、診断、治療、予防を理解する（教科書56-76ページ）。	・消化器感染症についてノートを整りし、理解しましょう。 ・食中毒の種類と特徴についてノートを整りし、理解しましょう。 ・肝炎ウイルスの種類と急性・慢性、肝硬変や肝癌への関与についてノートを整りし、理解しましょう。	4 時間
第4回 尿路感染症と性感染症  尿路感染症を起こす微生物（大腸菌、緑膿菌）や性感染症を起こす微生物（梅毒、クラミジア、淋病、後天性ヒト免疫不全症、性器ヘルペス感染症）の特徴、症状、診断、治療、予防を理解する（教科書77-93ページ）。	・尿路感染症と性感染症についてノートを整りし、理解しましょう。 ・尿路カテーテルと感染予防についてノートを整りし、理解しましょう。	4 時間
第5回 皮膚・粘膜の感染症および脳・神経系感染症  皮膚・粘膜の感染症を起こす微生物（A群レンサ球菌、黄色ブドウ球菌）、発疹を起こす微生物（麻疹ウイルス、水痘・帯状疱疹ウイルス、リケッチア）、脳神経系感染症を起こす微生物（髄膜炎菌、日本脳炎ウイルス）の特徴、症状、診断、治療、予防を理解する。（教科書94-113ページ）。	・皮膚・粘膜の感染症および脳・神経系感染症についてノートを整りし、理解しましょう。 ・発疹を起こす各感染症の症状や病状経過の特徴を整りし、理解しましょう。	4 時間
第6回 人獣共通感染症・寄生虫感染症	・人獣共通感染症・寄生虫感染症についてノートを整りし、理解しましょう。 ・輸入感染症の種類や特徴についてノートを整りし、理解しましょう。	4 時間

	<p>人獣共通感染症を起こす微生物（オウム病クラミジア、トキソプラズマ感染症など）、寄生虫感染症を起こす微生物（アニサキス、蟻虫、マラリア原虫）の特徴、症状、診断、治療、予防を理解する（教科書114-130ページ）。</p>		
第 7 回	<p><b>小児の感染症と母子感染</b></p> <p>小児の感染症を起こす微生物（A群溶血性レンサ球菌、ロタウイルス、百日咳菌）や母子感染を起こす微生物（B群レンサ球菌、風疹ウイルス、ヒトT細胞白血病ウイルス、後天性ヒト免疫不全症ウイルス、単純ヘルペスウイルス、梅毒トレポネーマ）の特徴、症状、診断、治療、予防を理解する（教科書131-146ページ）。</p>	<p>・小児の感染症と母子感染についてノートを整理し、理解しましょう。 ・妊婦スクリーニングについて、ノートを整理し、理解しましょう。</p>	4 時間
第 8 回	<p><b>高齢者の感染症、日和見感染症</b></p> <p>高齢者の感染症（誤嚥性肺炎、褥瘡感染、疥癬など）や日和見感染症（レジオネラ菌、セパシア菌など）の特徴、症状、診断、治療、予防を理解する（教科書147-159ページ）。</p>	<p>・高齢者の感染症、日和見感染症についてノートを整理し、理解しましょう。 ・誤嚥性肺炎、褥瘡感染の特徴、予防法についてノートを整理し、理解しましょう。</p>	4 時間
第 9 回	<p><b>移植患者の感染症、手術創・外傷・血管カテーテル関連の感染症</b></p> <p>移植に伴う易感染状態の感染症（サイトメガロウイルス、アスペルギルスなど）、手術創・外傷・血管カテーテル関連の感染症（エンドトキシン、破傷風菌、カンジダ・アルビカンスなど）の特徴、症状、診断、治療、予防を理解する。（教科書160-177ページ）。</p>	<p>・移植患者の感染症、手術創・外傷・血管カテーテル関連の感染症についてノートを整理し、理解しましょう。</p>	4 時間
第 10 回	<p><b>感染症の分類と法律、感染の成立と予防の基本</b></p> <p>感染症の分類（顕性・不顕性感染、内因性・外因性感染、垂直・水平感染、院内・市中感染）、感染症に関する法律、感染成立の3要因と予防の基本を理解する（教科書189-197ページ）。</p>	<p>・感染症の分類についてノートを整理し、理解しましょう。 ・感染症法の1類から5類にどのような病原体が含まれるかを意識して、ノートを整理し、理解しましょう。</p>	4 時間
第 11 回	<p><b>感染に対する生体防御機構と発症予防</b></p> <p>・感染に対する生体防御機構の種類（自然免疫と獲得免疫）、体液性／細胞性免疫応答、一次／二次免疫応答のしくみ（抗体、免疫担当細胞、免疫記憶など）について理解する（教科書198-207ページ）。</p> <p>・感染・発症予防の手段（ワクチン接種や血清療法、滅菌・消毒）について理解する（教科書208-225ページ）。</p>	<p>・感染に対する生体防御機構のしくみについてノートを整理し、理解しましょう。 ・ワクチンの種類と対象となる感染症についてノートを整理し、理解しましょう。 ・滅菌・消毒の方法についてノートを整理し、理解しましょう。</p>	4 時間
第 12 回	<p><b>感染症の検査、診断</b></p> <p>感染症の徴候・症状、原因微生物・医動物を検出する検査（喀痰、糞便、尿、血液などの検体検査）、免疫学的検査などを理解する（教科書226-236ページ）。</p>	<p>・検体採取の種類と採取時の注意点についてノートを整理し、理解しましょう。</p>	4 時間

<p>第 13 回 <b>感染症に対する治療の概要、敗血症の診断・治療</b></p> <p>感染症に対する治療の概要（抗感染薬、血清療法、外科的療法）、宿主の抵抗力の改善、敗血症の診断と治療などを理解する（教科書236-248ページ）。</p>	<p>・感染症の治療の概要についてノートを整理し、理解しましょう。・菌血症と敗血症の違いについてノートを整理し、理解しましょう。</p>	<p>4 時間</p>
<p>第 14 回 <b>感染症の薬物療法、薬剤耐性菌</b></p> <p>抗菌薬の種類や作用メカニズム、副作用について（教科書 236-248ページ）、また、薬剤耐性菌の種類（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌、バンコマイシン耐性腸球菌、多剤耐性緑膿菌、多剤耐性結核菌など）の特徴、予防（教科書178-188ページ）について理解する。</p>	<p>・感染症の薬物療法についてノートを整理・分類して、理解しましょう。・薬剤耐性菌が出現する背景や機序、予防法について、また具体的な耐性菌の種類と特徴についてノートを整理し、理解しましょう。</p>	<p>4 時間</p>

731

授業科目名	栄養学				
担当教員	井ノ上 恭子				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪成蹊短期大学栄養学科において、応用栄養学の実習授業を担当（全14回）				

### 授業概要

人間は、毎日食べ物を摂取・消化し栄養素を体内に吸収し、代謝することで適正な栄養状態を維持している。そのため、食品に含まれる栄養素が体内でどのように消化、吸収されるかについて、特性などの基礎について授業で解説する。本授業を通して、現在、日本における「食」に関する問題やその背景にある要因についても考え、健康を保つために必要な栄養や、人や患者を中心とした医療における「食」と「疾患」との関連についても理解を深めることができる。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP1. 人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる

#### 具体的内容：

ヒトの生命維持に必要な不可欠な「栄養素」について基礎を学ぶ

#### 目標：

看護師として必要な栄養学の基礎的な知識を修得

#### 汎用的な力

1. DP2. 人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる

自身の「食生活」に栄養学の知識を活用し、実践できる力を身に付ける

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」とします。小テストの未受験者は0点とします。課題は期日以降も受け付けますが減点とします。課題未提出者は失格とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

定期試験	：	看護師として必要な基礎的な考え方や知識を修得できているかどうかを判断する
	50 %	
授業内課題	：	授業内容に基礎的な知識の定着度を評価する。(独自のルーブリックに基づいて評価)
	30 %	

毎回の小テスト

: 課題に対する理解度やその内容を評価する。(独自のルーブリックに基づいて評価)

20 %

## 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
中村丁次	・(系統看護学講座 専門基礎分野) 人体の構造と機能 [3] 栄養学 (第13版)	・医学書院	・2020年

## 参考文献等

八訂食品成分表2022 (医歯薬出版)

## 履修上の注意・備考・メッセージ

- ・本授業は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
- ・授業外学修課題に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に小テストに備えて復習し、次回の授業にむけて予習をすること。
- ・遅刻・欠席をしないこと。
- ・欠席をした場合は、速やかに配布資料を取りに来ること。欠席者は未提出の課題を速やかに提出すること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間:	授業前後
場所:	教室内
備考・注意事項:	本授業に関する質問等は、記載しているメールアドレスに連絡を入れてください。 inoue-ky@g.osaka-seikei.ac.jp

## 授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 栄養学概論 (栄養学と看護) 保健・医療における栄養学について、看護師の役割を知る。	栄養学と看護のポイントについて振り返り、次回授業についての課題に取り組む。	4 時間
第2回 食事と食品 (食事摂取基準・食品に含まれる栄養素) 食事とその変遷について理解を深め、日本人の食事摂取基準とは何かについて知る。	食事摂取基準・食品に含まれる栄養素のポイントについて復習し、次回授業についての課題に取り組む。	4 時間
第3回 栄養素の種類と働き① (糖質) 糖質の種類を理解し、体内における役割、他の栄養素との関係について知る。	糖質の特徴についての振り返り、次回授業についての課題に取り組む。	4 時間
第4回 栄養素の種類と働き② (脂質) 脂質の種類を理解し、体内における役割、他の栄養素との関係について知る。	脂質の特徴について振り返り、次回授業についての課題に取り組む。	4 時間
第5回 栄養素の種類と働き③ (タンパク質) タンパク質の種類を理解し、体内における役割、他の栄養素との関係について知る。	タンパク質の特徴について振り返り、次回授業についての課題に取り組む。	4 時間
第6回 栄養素の種類と働き④ (ビタミン) ビタミンの種類を理解し、体内における役割、他の栄養素との関係について知る。	ビタミンの特徴について振り返り、次回授業についての課題に取り組む。	4 時間
第7回 栄養素の種類と働き⑤ (ミネラル) ミネラルの種類を理解し、体内における役割、他の栄養素との関係について知る。	ミネラルの特徴について振り返り、次回授業についての課題に取り組む。	4 時間
第8回 栄養の消化と吸収 消化器系のしくみと働きについて理解し、三大栄養素の消化と吸収について知る。	消化と吸収の特徴について振り返り、次回授業についての課題に取り組む。	4 時間

第 9 回	<b>エネルギー代謝</b>  体内でのエネルギー代謝と消費について理解し、エネルギー代謝の測定方法について知る。	エネルギー代謝の特徴について振り返り、次回授業についての課題に取り組む。	4 時間
第 10 回	<b>ライフステージと栄養① (乳幼児期・学童期・思春期・青年期)</b>  母乳栄養、混合栄養から離乳へと移行する乳児期や、食習慣を身に着ける時期である幼児期における食事と栄養、学童期、思春期・青年期における食事と栄養について知る。	ライフステージと栄養①のポイントについて振り返り、次回授業についての課題に取り組む。	4 時間
第 11 回	<b>ライフステージと栄養② (成人期・老年期)</b>  成人期、老年期における食事と栄養について知る。	ライフステージと栄養②のポイントについて振り返り、次回授業についての課題に取り組む。	4 時間
第 12 回	<b>看護と栄養① (チーム医療・栄養ケアマネジメント)</b>  保健、医療現場におけるチーム医療の特徴や栄養管理について知る。	看護と栄養①のポイントについて振り返り、次回授業についての課題に取り組む。	4 時間
第 13 回	<b>看護と栄養② (栄養状態の評価・判定)</b>  栄養アセスメントの意義について学び、栄養アセスメントの方法を知る。	看護と栄養②のポイントについて振り返り、次回授業についての課題に取り組む。	4 時間
第 14 回	<b>栄養と健康 (健康づくりと食生活)</b>  食生活の変遷と栄養の課題から生じる生活習慣病について知る。	講義で示したポイントについて振り返り、提示した課題に取り組む。	4 時間

731

授業科目名	発達心理学				
担当教員	清水真由子				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	臨床発達心理士として発達相談を担当（全14回）				

### 授業概要

看護の対象が誕生から死に至るまでの成長発達のな変化を遂げる人であると考え、ライフサイクルの各段階に特徴的に見られる心理や行動について理解を深めることは、看護を学ぶ上で重要である。この授業では、人を受精から死に至るまで、生涯にわたって発達の变化を続ける存在として位置づけ、環境との関わりの中で心的機能がどのように発達の变化を遂げていくのか理解を深める。その中で、ライフサイクルの各段階に応じた看護の必要性について意識を深め、発達心理学の知見を看護の中でどのように活用するかを考える。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

#### 具体的内容：

#### 目標：

1. DP1. 人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる

発達心理学的知識の修得と看護実践

発達心理学に関する諸理論について理解し、ライフサイクルの各段階の特徴に応じた看護者の関わりについて意識を高める。

#### 汎用的な力

1. DP3. 地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる

それぞれの発達段階におけるメンタルヘルス不全について理解する。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ不可とする。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業への積極的参加（1点×14回）

： 授業への積極的参加と質問に対する積極的な答えを総合して評価する。

14 %

授業内課題（3点×14回）

： 各回0～3点で評価する。独自の見解や具体例とともに論述されていれば3点、授業のポイントを十分に理解していれば2点、誤りや不足があれば1点、重大な誤り等があれば0点とする。

42 %

学期末試験

: 授業内容を十分に理解できているかを評価する。

44 %

## 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

授業中に適宜紹介する。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： オフィスアワーを活用してください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 発達心理学とは 人を生涯発達しつづける存在として位置づけることの意味について理解を深める。	シラバスを読み、授業の概略を理解する。	4 時間
第2回 発達理論と子ども観 発達は何によって展開すると考えているのか、それぞれの子ども観をエリクソンの発達理論と関連させて考える。	講義内容を復習し、自らの子ども観について考える。	4 時間
第3回 子どもを取り巻く人間関係と文化 人は人との関係の中に生まれ、新たな関係を見出し、育つ。人間が関係の中で育つ過程について考える。	講義内容を復習し、子どもを取り巻く人間関係と文化について考える。	4 時間
第4回 受胎から誕生まで 胎内環境、胎児に影響する要因、ヒトの特殊性などについて理解を深める。	講義内容を復習し、胎内環境や胎児に影響する要因について考える。	4 時間
第5回 身体的機能と運動機能の発達 身体発達や運動発達を理解し、発達変化に合わせた支援について考える。	講義内容を復習し、身体発達や運動発達について考える。	4 時間
第6回 言葉の発達 話し言葉が発せられるまでの道筋や言葉を獲得する道筋を理解する。	講義内容を復習し、言葉の発達について考える。	4 時間
第7回 社会性の発達①自己主張・自己抑制の発達 他者との関わりを通じた自己主張と自己抑制の発達の变化について理解する。	講義内容を復習し、自己主張と自己抑制の発達について考える。	4 時間
第8回 社会性の発達②他者の心の理解 他者の心に気づき、理解していく発達過程について理解する。	講義内容を復習し、他者の心の理解の発達について考える。	4 時間
第9回 社会性の発達③道徳性と思いやり 道徳性や思いやり、規範意識がどのように芽生え、発達してくるのかを理解する。	講義内容を復習し、道徳性と思いやりの発達について考える。	4 時間
第10回 アタッチメント理論と親子関係 アタッチメントに着目し、親子関係の心理構造について理解する。	講義内容を復習し、親子関係の心理構造について考える。	4 時間



第 11 回	<b>乳幼児期から学童期前期にかけての発達</b> 乳幼児期から学童期前期にかけての子どもの発達と家庭生活について考える。	講義内容を復習し、乳幼児期から学童期前期にかけての発達について考える。	4 時間
第 12 回	<b>学童期後期から青年期にかけての発達</b> 学童期後期から青年期にかけての発達の特徴と課題について考える。	講義内容を復習し、学童期後期から青年期にかけての発達について考える。	4 時間
第 13 回	<b>成人期・老年期における発達</b> 親は何によって成長・発達するのか、子どもや孫からの学びについて考える。	講義内容を復習し、成人期・老年期における発達について考える。	4 時間
第 14 回	<b>発達支援の実際</b> 発達上の問題の発見と把握の重要性を理解し、日々の支援の実際について学ぶ。	講義内容を復習し、発達支援の実際について考える。	4 時間

731

授業科目名	疫学・保健統計学				
担当教員	吉川貴仁				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	吉川貴仁（医師として総合病院、大学病院で勤務経験あり）				

### 授業概要

本科目は、人間集団における健康事象を観察し、その発生要因を理解するとともに促進する要因、抑制する要因について学習し、健康問題解決の方法論について学修することを目的とする。具体的には、疫学で用いられる指標、保健統計調査とデータおよび統計学的方法とその解釈、バイアスと行楽要因、スクリーニングを学び、生活習慣病について関連勝因と具体的な支援について考える。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP1. 人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる
2. DP2. 人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる

#### 具体的内容：

- 各種保健統計指標の読み取り方、解釈の方法について、実際のデータを通して学ぶ。
- 因果推論に必要とされる疫学・統計学の知識を学修する。

#### 目標：

- 主要な疾患のリスク要因から予防までを総合的に理解できる。さらに集団の健康問題の解決へつなげることができる。
- 研究・調査を正しく実施し、結果を基に正しい意思決定を行うための疫学・統計学の基礎的知識を理解できる。

#### 汎用的な力

1. DP1. 人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる

- 研究・調査のための倫理について基礎的知識を理解できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

定期試験

： テキストと講義資料の範囲の理解について評価します

80 %

課題等授業への取組

： 授業後に課題を課したミニレポート等

20 %

### 使用教科書

指定する

著者

タイトル

出版社

出版年

## 参考文献等

南山堂「看護学生のための疫学・保健統計学」他 授業中に適宜紹介します。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

授業中の問答に積極的に参加し、テキストおよび資料について理解を深めてください。履修後はノート等の整理をしましょう。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 授業前後の時間を活用してください

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 疫学とは何か 疫学と地域保健・看護について健康問題へのアプローチ、個人から集団への対象について理解を深める。	疫学についてノートを整理し、概念や用語について理解しましょう。	4 時間
第2回 疫学で用いられる指標 人間集団の健康事象について分母と分子、指標等健康事象の見方について理解を深める。	人間集団の健康事象の見方についてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
第3回 信頼性と妥当性 真値と誤差について信頼性と妥当性、外的妥当性と内的妥当性について理解を深める。	真値と誤差（エラー）についてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
第4回 バイアスと交絡 バイアス（偏り）と交絡について選択バイアス・情報バイアス・交絡と交絡の制御について理解を深める。	バイアス（偏り）と交絡、交絡の制御についてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
第5回 記述疫学、情報収集方法 記述疫学、要因の記述と特定化について理解を深める。	記述疫学の考え方と方法についてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
第6回 分析疫学、因果関係 分析疫学、因果関係の考え方について理解を深める。	分析疫学の考え方と方法についてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
第7回 観察研究、介入研究、システムティックレビュー 疫学調査方法（観察研究と介入研究）について理解を深める。	疫学調査方法の特徴についてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
第8回 スクリーニング スクリーニングの方法、目的、要件、意義について理解を深める。	スクリーニングの方法、目的、要件、意義についてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
第9回 疫学で用いられる統計学的手法とその解釈 母集団と調査方法、推定と検定、分布、関連の指標など統計の基礎について理解を深める。	母集団と調査方法、推定と検定、分布、関連の指標など統計の基礎についてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
第10回 疫学研究と倫理、情報処理 疫学調査の倫理について理解を深める。	疫学調査の倫理についてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
第11回 感染症・生活習慣・主な疾患の疫学 感染の基礎概念、予防対策、疫学調査、発生動向調査等について理解を深める。	感染症の疫学についてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
第12回 保健統計調査 保健統計と健康指標について理解を深める。	保健統計の歴史、分類、健康指標についてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間

第 13 回 人口統計	人口静態統計と人口動態統計、生命表についてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
人口静態統計と人口動態統計について理解を深める。		
第 14 回 傷病統計、その他の統計	感染症発生动向調査や食中毒統計などその他の統計調査についてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
その他の統計調査について理解を深める。		

731

授業科目名	社会福祉と社会保障				
担当教員	山岡淳・上掛利博				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	上掛利博（京都府生活協同組合連合会会長理事、城陽市地域福祉推進会議・高齢者虐待防止ネットワーク会議委員、京都府共同募金会理事、大阪市男女共同参画のまち創生協会評議員などを歴任）				

### 授業概要

本科目は、社会福祉の理念と社会保障制度について学修することを目的とする。

第1回～7回 福祉の歴史とその展開の変遷から社会福祉の考え方を学び、現代社会が抱える様々な社会問題と福祉のあるべき姿を国際比較をふまえて考察する。

第8回～14回 社会福祉制度と法体系について学ぶとともに、その背景と社会福祉の財政について理解を深める。また、社会福祉の場で働く専門職の役割と地域のボランティアとの連携を学び、現代の社会福祉が抱える課題について考察する。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP2. 人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる

2. DP2. 人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる

#### 具体的内容：

日本や諸外国の社会福祉の歴史と現実を学び、人権思想の発展との関連性を理解する。

現代の社会保障制度の仕組みや直面している課題を知り、考察する。

#### 目標：

社会福祉とは何かを考え、誰もが日常の生活の質を保つことの重要性を理解することができる

将来の医療従事者として、国民が利用しうる社会資源を理解することができる。

#### 汎用的な力

1. DP3. 地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる

2. DP1. 人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる

社会の中で生きる一個人としての自分を自覚し、医療従事者となった際に何が出来るかを広い視点から考えることができる。

社会福祉とは何かを理解し、人権について自分の考えを述べる事ができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

第1回～7回 レポートおよび授業への貢献	:	授業への貢献度、参加の積極性 (25%)	レポート内容 (25%)
		50 %	
第8回～14回 レポートおよび授業内課題	:	授業内で出す課題・小問題の評価 (25%)	レポート内容 (25%)
		50 %	

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

- 第1～7回  
 ①丹波史紀ほか編『たのしく学ぶ社会福祉』（ミネルヴァ書房、2021年）  
 ②『国民の福祉と介護の動向』（厚生労働統計協会、毎年9月刊行）  
 第8～14回  
 ①香取照幸『教養としての社会保障』（東洋経済新報社、2017年）

### 履修上の注意・備考・メッセージ

第1回～7回は、毎回「質問・感想用紙」を配布し、次の講義の最初に回答紹介する。視聴覚教材を用いて、具体的に理解し、「自ら考える」時間にしますので、出席が不可欠である。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 上掛：第1回～7回は、メールで質問を受け付ける。  
 山岡：オフィスアワーを活用してください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 「福祉」の思想  「障害」とは何か？；「自己責任論」と「人間の自由を支える福祉」の違い	①福祉の歴史から「自己責任論」の意味を考える。②「障害」と「環境」の関係を整理する。	4 時間
第2回 「社会福祉」概念の発展  誰もが「老人」になることの意味；ノーマライゼーション；「選別主義の福祉」から「普遍主義の福祉」へ	「真に福祉を必要とする人に手厚い福祉を」というスローガンの意味を考える。	4 時間
第3回 社会福祉の意義  女性の社会進出；「子どもの権利」の位置づけ；「人間発達」と社会の発展	「社会福祉の充実」と「経済の発展」とは、同時に実現することが可能なことを理解する。	4 時間
第4回 北欧の福祉社会  普通の人々の日常生活の質の高さ；女性の社会的地位の高さ；民主主義の発展	①「社会福祉」と「民主主義」の関連を理解する。②北欧の「福祉社会」の特徴を整理する。	4 時間
第5回 アメリカの医療福祉  民営化（営利企業とNPOの差異）；「貧困」の意味と格差社会の現状；医療福祉の専門職の役割	「福祉国家」としての北欧諸国とアメリカとの違いを理解し、日本の政策動向について知る。	4 時間
第6回 社会福祉の土台  「住宅」（居場所）、「労働」（役割と評価）、「教育」（ひとづくり）が、社会福祉において持つ意味	「人間の自立」に不可欠な条件を考え、「住宅」「労働」「教育」のそれぞれが何故必要なのかを整理する。	4 時間
第7回 住民参加の地域福祉  「この子らを世の光に」（糸賀一雄）の意味；福祉を創る＝「学習する社会」の展望	「この子らを世の光を」（選別主義）と、「この子らを世の光に」（普遍主義）の違いを理解し、そのための条件を考える。	4 時間

第 8 回	<b>日本の社会保障制度の概要</b> 日本の社会保障制度の枠組みについて学ぶ。	社会保障制度が国民の生活のどの部分までカバーしているか整理する。	4 時間
第 9 回	<b>医療保険制度</b> 国民皆保険を支える仕組み（健康保険、国民健康保険、高齢者医療制度、保険診療）について学ぶ。	医療保険の財政方式と、どのような国民をどこまでカバーするか整理する。	4 時間
第 10 回	<b>医療提供体制とその展望</b> 日本において医療がどのように提供されているか理解し、地域医療構想によってどのように変化しているか学ぶ。	日本の医療提供体制の特徴と、将来的な計画について整理する。	4 時間
第 11 回	<b>介護保障制度</b> 介護保険制度の概要、需給サービス内容、サービス事業者・施設、介護保険の財政について学ぶ。	介護保険制度の仕組みと、給付に至る仕組みについて整理する。	4 時間
第 12 回	<b>高齢者の生活と年金制度</b> 高齢者の生活とその生活における公的年金制度の役割について学ぶ。	年金制度の概観について整理する。	4 時間
第 13 回	<b>貧困と生活保護制度</b> 国内の貧困の現状と救貧のシステムである生活保護制度について学ぶ。	日本の貧困について生活保護制度がどこまでカバーしているか整理する。	4 時間
第 14 回	<b>経済社会学から見た地域包括ケア</b> 高齢者が住み慣れた地域での生活を継続できるよう支援する地域包括ケアシステムについて、経済的な視点から考える。	地域包括ケアシステムとは何かを調べて授業に臨みましょう。当科目で学んだことを振り返りましょう。	4 時間

731

授業科目名	看護学概論 I				
担当教員	吾妻知美				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	看護師として病院勤務経験あり				

### 授業概要

人間科学、看護科学を基盤とした看護実践を中核概念に据えて学びを深めていきます。看護の概念、看護実践の基礎となる知識や技術など、看護学の骨格を体系化していくことを目指して学修します。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP1. 人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる

#### 具体的内容：

看護の歴史を通して変遷について理解し、看護の概念、看護独自の機能、看護職の責務と可能性について学修する。

#### 目標：

看護の歴史と背景、看護の概念、看護活動、看護の対象について理解する。

#### 汎用的な力

1. DP3. 地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる

看護の対象となる人や家族を理解し、看護実践の基盤となる技術について学修し、理解することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

### 成績評価

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

定期試験

： テキスト及び講義資料で学んだ範囲の理解についてテストします。

80 %

授業後の課題の提出

： レポート内容から理解の程度を把握します。

20 %

### 使用教科書

指定する

著者

タイトル

出版社

出版年

高橋照子

・看護学原理 改訂第2版

・南江堂

・2016年

### 参考文献等

池川清子 「看護-生きられる世界の実践知」 ゆみる出版 1990年



その他、適宜紹介する。

#### 履修上の注意・備考・メッセージ

授業中の問答について積極的に参加し、テキスト及び資料について理解を深めてください。履修後はノート等の整理をしましょう。

#### オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： オフィスアワーを活用してください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第 1 回 <b>ガイダンス、看護の歴史</b> 看護の歴史を通して変遷を理解し、看護の概念について学修します。	シラバスを参考にして、授業の目的と概略をつかみましょう。	4 時間
第 2 回 <b>看護の本質（看護の特性と定義）</b> 看護の概念を元に、看護の本質及び定義について学びます。	看護の特性と定義についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第 3 回 <b>看護の専門性</b> 看護独自の機能、看護職の責務と可能性について学修します。	看護の専門性についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第 4 回 <b>看護の対象となる個人・家族・社会</b> 看護の対象となる個人・家族・社会について学びます。	看護の対象となる個人、家族、社会についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第 5 回 <b>看護実践の基盤 1（看護実践における技術）</b> 看護実践の基盤 1（看護実践における技術）について学びます。	看護実践における倫理についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第 6 回 <b>看護実践の基盤 2（看護実践における論理）</b> 看護実践の基盤 2（看護実践における論理）について学びます。	看護実践における倫理についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第 7 回 <b>チーム医療と看護</b> 疾病の多様化と医療の高度化に伴って必要とされる看護におけるチーム医療の必要性について学びます。	チーム医療についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間

731

授業科目名	看護学概論Ⅱ				
担当教員	吾妻知美				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	看護師として病院勤務経験あり				

### 授業概要

看護実践の基礎となる理論や看護理論の学習を通して、看護学における理論のもつ意味を考えます。理論と実践の関係について考え、その活用の可能性について検討するとともに、この学習を通して自らの看護学への探求姿勢や看護観を養います。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

#### 具体的内容：

#### 目標：

1. DP1. 人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる

主な看護理論について学修し理解を深めていきます。その上で看護理論と看護実践の関係について考え、自己の看護観を養う。

看護実践の基礎となる理論や看護理論を学修し、理論と実践の関係について考えることができる。

#### 汎用的な力

1. DP1. 人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる

看護理論を学修し、自身の看護学を探求する姿勢と看護観を追求することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

定期試験 : テキスト及び講義資料で学んだ範囲の理解について評価します。

80 %

授業後の課題の提出 : 課題内容を評価します。

20 %

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
筒井真優美編	・「看護学理論 改訂第3版」	・南江堂	・2019年
フローレンス・ナイチンゲール著/湯植ます他訳	・「看護覚え書 改訂第7版」	・現代社	・2011年

ヴァージニア・ヘンダーソン著/湯植ます他訳

・「看護の基本となるもの  
再新装版」

・日本看護協会出版会

・2016年

### 参考文献等

高橋照子編 「看護学原理 改訂第2版」 南江堂 2016年  
その他、適宜紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

授業中の問答について積極的に参加し、テキスト及び資料について理解を深めてください。履修後はノート等の整理をしましょう。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： オフィスアワーを活用してください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第 1 回 <b>看護理論の変遷</b> 看護実践の基盤となる学問と、看護理論の変遷についてひも解きます。	看護理論の変遷についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第 2 回 <b>近代看護の基盤を作った看護理論 (ナイチンゲール)</b> 近代看護の基盤を作った看護理論 (ナイチンゲール) について学修し、実践との関連を考えます。	看護理論 (ナイチンゲール) についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第 3 回 <b>看護理論の萌芽期における看護理論 1 (ヘンダーソン)</b> 近代看護の萌芽期の看護理論 (ヘンダーソン) について学修し、実践との関連を考えます。	看護理論 (ヘンダーソン) についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第 4 回 <b>看護理論の萌芽期における看護理論 2 (ペプロー、ウィーデンバック)</b> 近代看護の萌芽期の看護理論 (ペプロー、ウィーデンバック) について学修し、実践との関連を考えます。	看護理論 (ペプロー他) についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第 5 回 <b>看護理論の開発期における看護理論 (オレム、トラベルビー)</b> 近代看護の開発期の看護理論 (オレム、トラベルビー) について学修し、実践との関連を考えます。	看護理論 (オレム、トラベルビー) についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第 6 回 <b>看護理論の発展期における看護理論 (ベナー、ワトソン)</b> 近代看護の発展期の看護理論 (ベナー、ワトソン) について学修し、実践との関連を考えます。	看護理論 (ベナー、ワトソン) についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第 7 回 <b>看護理論と看護実践</b> 近代看護における様々な理論を振り返って、理論と看護実践との関係について考えます。	看護理論と実践の関係についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間

731

授業科目名	基礎看護学方法論 I				
担当教員	吾妻知美・横田知子・中村美保・岩崎真子				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	吾妻知美（看護師として病院勤務経験あり）、横田知子（看護師として病院勤務経験あり）、中村美保（看護師として病院勤務経験あり）、岩崎真子（看護師として病院勤務経験あり）				

### 授業概要

本科目では、看護学概論 I を踏まえて看護における技術の意味と特性を理解します。看護技術の基本となる『感染予防』の技術、『活動と休息』『生活環境の調整』の援助技術についての科学的根拠を学び、その具体的方法について学習します。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP2. 人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる

#### 具体的内容：

看護学概論 I を踏まえて、看護技術の基本となる『感染予防』『活動と休息』『生活環境の調整』の援助技術について科学的根拠を理解し、具体的方法について学修します。

#### 目標：

看護技術の基本となる『感染予防』『活動と休息』『生活環境の調整』の援助技術の科学的根拠を理解し、実践できる。

#### 汎用的な力

1. DP3. 地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる

対象者への看護支援として、看護技術の基本となる『感染予防』『活動と休息』『生活環境の調整』の援助技術の科学的根拠を理解し、実践できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

筆記試験	：	テキスト及び講義資料で学んだ範囲の理解について評価します。
	60 %	
実技試験	：	提出物にコメント・評価をつけて返却します。
	40 %	

### 使用教科書

指定する

著者

タイトル

出版社

出版年

## 参考文献等

適宜、提示する。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

授業中の問答やグループによる演習等に積極的に参加し、履修後はノート等の整理をしましょう。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： オフィスアワーを活用してください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 看護技術の原則（安全・安楽・自立と自律） 看護援助の基本となる看護技術の原則（安全・安楽・自立と自律）について、その必要性和意味を学修します。	ガイダンス内容をもとにして、授業の目的と概略をつかみましょう。	4 時間
第2回 感染予防1 感染予防の意味と原則を学修し、看護支援における感染予防の必要性和意義について理解を深めます。	感染予防についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第3回 手指衛生（演習） 感染予防を理解して上で、看護援助の基本となる手指衛生の必要性和意義を理解し、演習を通してその実際を学びます。	手指の衛生についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第4回 活動と休息 活動と休息が人の生活に与える影響について学修します。	活動と休息についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第5回 体位の保持と体位変換（演習） 体位の保持と体位変換について、原則を理解し、演習により具体的な技術について学習します。	体位の保持と体位変換についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第6回 車椅子、ストレッチャーへの移送と移動（演習） 車椅子、ストレッチャーへの移送と移動について、原則を理解し、演習により具体的な技術について学習します。	車椅子、ストレッチャーへの移送と移動についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第7回 生活環境の調整 病室、病床環境を整える意味と原則を理解し、環境衛生の具体的な技術について学習します。	環境衛生の意味についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第8回 環境整備（演習） 病室における環境衛生について、演習により具体的な技術を学習します。	環境衛生を整える技術についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第9回 ベッドメイキング（演習） ベッドメイキングについて原則を理解し、演習により具体的な技術について学習します。	ベッドメイキングについてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第10回 シーツ交換（演習） シーツ交換について原則を理解し、演習により具体的な技術について学習します。	シーツ交換についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第11回 寝衣交換（演習） シーツ交換について原則を理解し、演習により具体的な技術について学習します。	シーツ交換についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間

第 12 回	<b>感染予防 2</b>	感染予防についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
	感染予防の意味と原則を学修し、看護師個人を守る必要性と意義について理解を深めます。		
第 13 回	<b>隔離ケアおよびガウンテクニック</b>	隔離ケア等についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
	感染予防の意味と原則を学修し、具体的方法としての隔離ケア、ガウンテクニックを学修します。		
第 14 回	<b>無菌操作</b>	無菌操作についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
	感染予防の意味と原則を学修し、具体的方法としての無菌操作について学修します。		

731

授業科目名	基礎看護学方法論Ⅱ				
担当教員	吾妻知美・横田知子・中村美保・岩崎真子				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	吾妻知美（看護師として病院勤務経験あり）、横田知子（看護師として病院勤務経験あり）、中村美保（看護師として病院勤務経験あり）、岩崎真子（看護師として病院勤務経験あり）				

### 授業概要

本科目では、基礎看護学方法論Ⅰで学んだ看護技術の原則を踏まえて、対象者の健康状態を理解するための基本技術である『観察』『バイタルサイン』の技術、および対象者の健康を促進するための日常生活の援助である『清潔』『排泄』に関する援助技術の科学的根拠とその具体的方法について学習する。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP1. 人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる

#### 具体的内容：

看護技術の基本となる『観察』『バイタルサイン』『清潔』『排泄』の援助技術について科学的根拠を理解し、具体的方法について学修する。

#### 目標：

看護技術の基本となる『観察』『バイタルサイン』『清潔』『排泄』の援助技術の科学的根拠を理解し実践できる。

#### 汎用的な力

1. DP3. 地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる

対象者への看護支援として、看護技術の基本となる『観察』『バイタルサイン』『清潔』『排泄』の援助技術の科学的根拠を理解し、実践できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

筆記試験	：	テキスト及び講義資料で学んだ範囲の理解について評価します
	60 %	
実技試験	：	実技を評価します。
	40 %	

### 使用教科書

指定する

著者

タイトル

出版社

出版年

## 参考文献等

適宜、紹介する。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

授業中の問答やグループによる演習等に積極的に参加し、履修後はノート等の整理をしましょう。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： オフィスアワーを活用してください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 看護における観察 看護援助の基本となる看護における観察について、その必要性和意味を学修します。	看護における観察についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第2回 バイタルサイン 観察についての理解を元に、科学的根拠となるバイタルサインと測定の意味について学修します。	バイタルサインについてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第3回 体温測定、脈拍測定、呼吸測定（演習） 体温測定、脈拍測定、呼吸測定の原則を理解し、演習により具体的な技術について学習します。	体温測定、脈拍測定、呼吸測定についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第4回 血圧測定（演習） 血圧測定の原則を理解し、演習により具体的な技術について学習します。	血圧測定についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第5回 清潔 清潔についてその科学的根拠と援助の原則を理解し、具体的な援助技術について学習します。	清潔についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第6回 清拭（演習） 清潔についてその科学的根拠と援助の原則を理解し、具体的な援助技術について学習します。	清潔についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第7回 足浴・手浴（演習） 足浴や手浴の原則を理解し、演習により具体的な技術について学習します。	足浴・手浴についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第8回 洗髪（演習） 洗髪の原則を理解し、演習により具体的な技術について学習します。	洗髪についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第9回 陰部ケア（演習） 陰部ケアの原則を理解し、演習により具体的な技術について学習します。	陰部ケアについてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第10回 排泄（演習） 排泄についての原則を理解し、演習により具体的な技術について学習します。	排泄についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第11回 ベッド上での排泄介助（演習） ベッド上での排泄の原則を理解し、演習により具体的な技術について学習します。	排泄介助についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第12回 グリセリン浣腸、摘便（演習） グリセリン浣腸、摘便の原則を理解し、演習により具体的な技術について学習します。	グリセリン浣腸、摘便についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間



第 13 回 <b>導尿 (演習)</b>	導尿についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
導尿の原則を理解し、演習により具体的な技術について学習します。		
第 14 回 <b>統合演習</b>	学修内容についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4 時間
既習の看護技術を活用した事例に基づいた看護技術の実践を学修します。		

731

授業科目名	<b>基礎看護学実習 I</b>				
担当教員	吾妻知美・横田知子・中村美保・貞永千佳生・二十軒温美・阿部真幸・青山桂子・辻野睦子・石川信仁・岩崎真子・中島一成・佐藤知枝・久保里香・松井芽衣子・田中弥生・尾崎玲奈・西澤美香・藤本萌美				
学年・コース等	1年	開講期間	通年	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当する看護教員は、すべて臨床現場（病院ほか）における十分な実務経験を有している。				

### 授業概要

本科目では、看護が提供されている場と看護職の役割について学びます。また、病いや加齢による健康上の問題を持つ対象を「生活者」として理解し、看護実践の体験を通して、看護援助のありかたを学修します。さらに、援助者関係の最も基本である対象者への関心や、相互の人間関係を体験し考察します。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

#### 具体的内容：

#### 目標：

1. DP2. 人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる

病院における患者とのコミュニケーションを通して信頼関係を作り、患者の生活の様子と病院での看護援助や治療・検査を観察する。

生活者としての患者と自分との相互関係を通して、信頼関係を構築するためのコミュニケーションを図ることができる。

#### 汎用的な力

1. DP3. 地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる

病院の受け持ち患者とコミュニケーションを図り信頼関係を深めるとともに、患者を健康上の問題を抱える生活者として理解することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

参加態度、技術の習得度、実習記録、実習後レポート

： 左記内容を総合的に判断する  
※原則として実習は1単位（1週間）実習参加を基本とする

100 %

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

適宜、紹介します。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

別途配付する実習要項を確認し、実習に臨んでください。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：

オフィスアワーを活用してください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第 1 回 実習  病院にて、1 単位 1 週間の基礎看護学実習を履修します。実習期間中は毎日の実習目標および行動計画を提出して、主体的に準備をします。学内のオリエンテーション後、受け持ち患者とコミュニケーションを図りながら信頼関係を深めて、患者を健康上の問題を抱える生活者として理解します。	事前に、実習目標と行動計画を考えます。また、看護支援に必要な技術の予習を行い、実習後は知識や技術の不足について復習しましょう。	10 時間
第 回		4 時間
第 回		4 時間
第 回		4 時間
第 回		4 時間
第 回		4 時間
第 回		4 時間
第 回		4 時間
第 回		4 時間
第 回		4 時間
第 回		4 時間
第 回		4 時間

731

授業科目名	地域健康探索論 I				
担当教員	星野明子・石川信仁				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	星野明子（看護師として病院勤務、保健師として自治体勤務経験あり） 石川信仁（看護師として病院勤務、保健師として病院健診センターおよび自治体勤務経験あり）				

### 授業概要

看護の対象となる人々の様々な暮らしをイメージし、各世代の健康意識や関連する環境や資源、健康と健康に影響する要因とは何かについて学びます。各世代の人々の生活の様子と属する学校や行政、利用する施設、病院やクリニックなどの医療関連の施設や地域社会の様々な施設について、地域を診て情報を整理する枠組みについて学修します。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

#### 具体的内容：

#### 目標：

1. DP2. 人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる

対象となる人々の様々な暮らしについて学び、各世代の健康意識や関連する環境や資源、健康に影響する要因について学修する。

看護の対象となる人々の様々な暮らしをイメージし、各世代の健康意識や関連する環境と資源、健康に影響する要因について考えることができる。

#### 汎用的な力

1. DP3. 地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる

地域の人々の暮らしについて理解し、各世代ごとの健康と健康課題について考えることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業参加の様子

： 発言やグループワークの参加度

30 %

最終レポートの評価

： レポート内容の評価

70 %

### 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

金川克子 著 「地域看護診断-技法と実際-」 東京大学出版会 2000年  
他、必要時に適宜示します

## 履修上の注意・備考・メッセージ

積極的に授業中の問答に参加し、参考文献及び資料について理解を深めてください。履修後はノート等の整理をしましょう。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： オフィスアワーを活用してください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第 1 回 <b>ガイダンス 地域の人々の健康について考える</b> 地域健康探索論の学修目標について理解し、健康について考えましょう。	シラバスを読み、授業の概略をつかみましよう。	4 時間
第 2 回 <b>健康意識と健康の概念①</b> 乳幼児、青年期および家族の健康と健康意識について学修し、それぞれの健康意識について考えます。	乳幼児、青年期および家族の健康と健康意識についてノートを整理し、概念や用語について理解しましょう。	4 時間
第 3 回 <b>健康意識と健康概念②</b> 成人期、高齢期世代の健康と健康意識について理解を深めましょう。健康意識と身体的な健康について考えます。	成人期、高齢期世代の健康と健康意識についてノートを整理し、概念や用語について理解しましょう。	4 時間
第 4 回 <b>健康に影響する要因①</b> 健康に影響する要因について学修します。何がどのように健康に影響するのか、基本的な理論をもとに考えましょう。	健康に影響する要因について、ノートを整理し、概念や用語について理解しましょう。	4 時間
第 5 回 <b>健康に影響する要因②</b> 何がどのように健康に影響するのか、具体的な事例を元に考えましょう。	ノートを整理し、概念や用語について理解しましょう。	4 時間
第 6 回 <b>健康に影響する要因③</b> 世代ごとの健康に、何がどのように健康に影響するのか基本的なモデルにグループディスカッションしてまとめしていきます。	グループでの学びについて、ノートを整理し、概念や用語について理解しましょう。	4 時間
第 7 回 <b>まとめ</b> 学びをグループごとに発表して、地域健康探索論 I の内容をふりかえります。	講義を踏まえてノートを整理し、これまで学修した、概念や用語について復習しましょう。	4 時間

731

授業科目名	地域健康探索論Ⅱ				
担当教員	星野明子・石川信仁・西澤美香・藤本萌美				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	星野明子（看護師として病院勤務、保健師として自治体勤務経験あり）、石川信仁（看護師として病院勤務、保健師として病院健診センターおよび自治体勤務経験あり）、西澤美香（看護師として病院勤務、保健師として自治体勤務経験あり）、藤本萌美（保健師として自治体勤務勤務あり）				

### 授業概要

看護の対象となる人々の様々な暮らしと健康との関連について考えます。また、実際にフィールドワークをして、地域を診るための枠組みをもとに地域の情報を整理し、地域に暮らす人々の生活と健康な生活に影響を及ぼす要因について考えます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP2. 人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる

#### 具体的内容：

実際にフィールドワークをして、地域を診るための枠組みをもとに地域の情報を整理し、地域に暮らす人々の生活と健康な生活に影響を及ぼす要因について検討します。

#### 目標：

看護の対象となる人々の様々な暮らしをイメージし、各世代の健康意識や関連する環境と資源、健康に影響する要因について考えることができる。

#### 汎用的な力

1. DP3. 地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる

地域の人々の暮らしについて理解し、各世代ごとの健康と健康課題について考えることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 成績評価の方法・評価の割合

授業参加の様子

30 %

最終レポートの評価

70 %

#### 評価の基準

： 発言やグループワークの参加度

： レポート内容の評価

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

金川克子著：地域看護診断-技法と実際- 東京大学出版会 2000年  
他、必要時に適宜示します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

授業中の問答について積極的に参加し、参考文献及び資料について理解を深めてください。履修後はノート等の整理をしましょう。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： オフィスアワーを活用してください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第 1 回 <b>ガイダンス</b> 地域健康探索論Ⅰを振り返り、Ⅱの学修目標を理解しましょう。	シラバスを読み、授業の概略をつかみましょう。	4 時間
第 2 回 <b>地域の暮らしと健康について考える①</b> 地域の暮らしと健康について考えます。地域の生活情報をまとめる地区視診について学びます。	地域の健康と暮らしについてノートを整理し、概念や用語について理解しましょう。	4 時間
第 3 回 <b>地域の暮らしと健康について考える②</b> 地域の暮らしと健康について考えます。地域の生活情報をまとめる地区視診（フィールドワークを記録するフレーム）について学びます。地域の情報を集めて特徴をまとめましょう。	地区視診についてノートを整理し、理解しましょう。	4 時間
第 4 回 <b>地域の暮らしと健康について考える③</b> 対象となる近隣の地区をフィールドワークします。多様な情報をフレームに整理します。	ノートを整理し、概念や用語について理解しましょう。	4 時間
第 5 回 <b>地域の暮らしと健康について考える④</b> 近隣をフィールドワークして、健康に関連する情報をフレームにまとめます。グループワークです。	ノートを整理し、概念や用語について理解しましょう。	4 時間
第 6 回 <b>地域の暮らしと健康について考える⑤</b> グループごとに、情報を集約しフレームを作成します。	ノートを整理し、概念や用語について理解しましょう。	4 時間
第 7 回 <b>発表とまとめ</b> 学びをグループごとに発表して、地域健康探索論Ⅱの内容をふりかえります。	これまで学修した、概念や用語について復習しましょう。	4 時間

731

授業科目名	地域健康探索論演習				
担当教員	星野明子・石川信仁・西澤美香・藤本萌美				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	星野明子（看護師として病院勤務、保健師として自治体勤務経験あり）、石川信仁（看護師として病院勤務、保健師として病院健診センターおよび自治体勤務経験あり）、西澤美香（看護師として病院勤務、保健師として自治体勤務経験あり）、藤本萌美（保健師として自治体勤務勤務あり）				

### 授業概要

地域健康探索論Ⅰ、Ⅱの学びをもとに、看護の対象となる人々の様々な暮らしと健康について学びを深めていきます。実際に地域の人々との交流体験（自治会、シニアクラブ、住民協など）をとおして、地域に暮らす人々の生活と健康、生活に影響を及ぼす要因と看護支援について考えていきます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

#### 具体的内容：

#### 目標：

1. DP2. 人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる

実際に地域の人々との交流体験（自治会、シニアクラブ、住民協など）とおして、地域に暮らす人々の生活と健康、生活に影響を及ぼす要因と看護支援について考える。

看護の対象となる人々の様々な暮らしと健康意識や健康に関連する行動について考察することができる。

#### 汎用的な力

1. DP3. 地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる

地域に暮らす人々の生活と健康、生活に影響を及ぼす要因と看護支援について考察することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

演習の参加及び役割

： 左記内容を総合的に判断します。

30 %

演習後のレポート

： レポートの記載内容を評価します。

70 %

### 使用教科書

特に指定しない



## 参考文献等

国民衛生の動向（厚生統計協会）

## 履修上の注意・備考・メッセージ

積極的に地域の方と交流し、グループでの学びにつなげてください。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： オフィスアワーを活用してください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第 1 回 ガイダンス  演習内容の説明をして、看護の対象となる人々の様々な暮らしと健康について考えます。	地域健康探索論 I、II の学びを振り返りましょう。演習内容について把握しましょう。	4 時間
第 2 回 世代ごとの健康意識及び健康課題との関連を考える①  実際に地域の人々との交流体験（自治会、シニアクラブ、住民社協など）をとおして、地域に暮らす人々の生活について考察します。	地域に暮らす世代ごとの生活について、演習での学びをまとめましょう。	4 時間
第 3 回 世代ごとの健康意識及び健康課題との関連を考える②  実際に地域の人々との交流体験（自治会、シニアクラブ、住民社協など）をとおして、地域に暮らす人々の生活に影響を及ぼす要因と看護支援について考察します。	地域に暮らす世代ごとの生活について、演習での学びをまとめましょう。	4 時間
第 4 回 世代ごとの健康意識及び健康課題との関連を考える③  実際に地域の人々との交流体験（自治会、シニアクラブ、住民社協など）をとおして、地域に暮らす人々の生活に影響を及ぼす要因と看護支援について考察します。	地域に暮らす世代ごとの生活について、演習での学びをまとめましょう。	4 時間
第 5 回 世代ごとの健康意識及び健康課題との関連を考える④  グループごとに、メンバー間での情報を共有し、発表に向けて資料作成をします。	地域に暮らす世代ごとの生活について、演習での学びをまとめましょう。	4 時間
第 6 回 発表①  グループごとに発表し、学びを共有します。	地域に暮らす人々の健康課題と生活に影響を及ぼす要因との関連をとらえて、看護支援について考察しましょう。	4 時間
第 7 回 発表② まとめ  グループごとの発表後、健康探索論演習の内容をふりかえります。	地域に暮らす人々の健康課題と生活に影響を及ぼす要因との関連をとらえて、看護支援について考察しましょう。	4 時間